令和元年東日本台風を踏まえた

久慈川緊急治水対策プロジェクト

～地域が連携し、多重防御治水により、社会経済被害の最小化を目指す～

【松沼橋架替】

令和元年東日本台風により大子町では、住宅や役場などの公共施設が浸水する等の被害が発生したことをうけ、堤防整備を進めています。堤防整備区間にある松沼橋は、必要な堤防の高さよりも低く、増水した久慈川の流れを阻害するため、架替工事を実施いたします。

令和元年東日本台風時

事業の流れ

令和元年東日本台風洪水における久慈川からの越水防止を目標に令和６年度の完成を目指します。

大子地区等、久慈川上流の県管理区間では、国が権限代行により、橋の架替、河道掘削、堤防整備等の治水対策を進めてまいります。

令和2年度 → 令和3年度 → 令和4年度 → 令和5年度 → 令和6年度

プロジェクトの説明、測量、堤防設計内容の説明

概略設計

詳細設計

◎地区回覧・地権者説明

用地幅杭（はばくい）設置

設計に基づき堤防などの工事に必要な用地の範囲を示す杭を打設します。

権限代行とは

激甚、頻発化する水害に対応するため都道府県等管理河川で災害復旧工事などを国土交通大臣が代わって実施できる制度。

用地の調査

堤防などに必要な用地、建物などの調査を行い、所有者の立ち会いのもと、用地境界等の確認を行います。

用地補償の説明・契約

用地・物件調査結果をもとに所有者の皆様に補償内容の説明を行い、契約締結後、補償金の支払いを行います。

旧橋撤去

新橋建設工事

下部工

橋桁を支えるための土台（橋台・橋脚）を構築します。

上部工

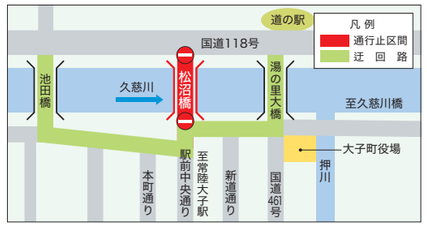
橋脚の上に橋桁を設置し上部に道路を作っていきます。

取付道路工事

橋に道路を取り付けて住宅、公共施設などと結びつけます。

■通行止区間

工事期間中は松沼橋が全面通行止めとなりますので、上流側の池田橋または下流側の湯の里大橋への迂回をお願いいたします。



国土交通省 関東地方整備局
久慈川緊急治水対策河川事務所
TEL：0294-72-1151
〒313-0015
茨城県常陸太田市木崎一町700-1

大子町役場
TEL：0295-72-1111
〒319-3526
茨城県久慈郡大子町大字大子866

●橋梁架替に関するお問い合せはこちらです ≫ 久慈川緊急治水対策河川事務所 検索

令和元年 大子町を襲った東日本台風

令和元年東日本台風において、久慈川ではこれまでに経験したことのない洪水が発生しました。
堤防からの越水が複数箇所確認され、国が管理する区間で3箇所、県が管理する区間で4箇所が決壊するなど、流域に甚大な被害が発生しました。
大子町においては、約194ヘクタール（東京ドーム約41個分）、584戸の家屋浸水、76件の土砂崩れや電柱の倒壊等の被害が確認され、役場や衛生センター、松沼集会所等の公共施設が床上浸水しました。

（注）浸水の痕跡調査により作図したもので、実際の氾濫区域とは異なる可能性があります。

令和元年東日本台風（台風第19号）
大子町中心部における浸水および河川増水

浸水した大子町中心部

河川増水時の松沼橋

河川増水時の大子町役場

大子地区における整備予定

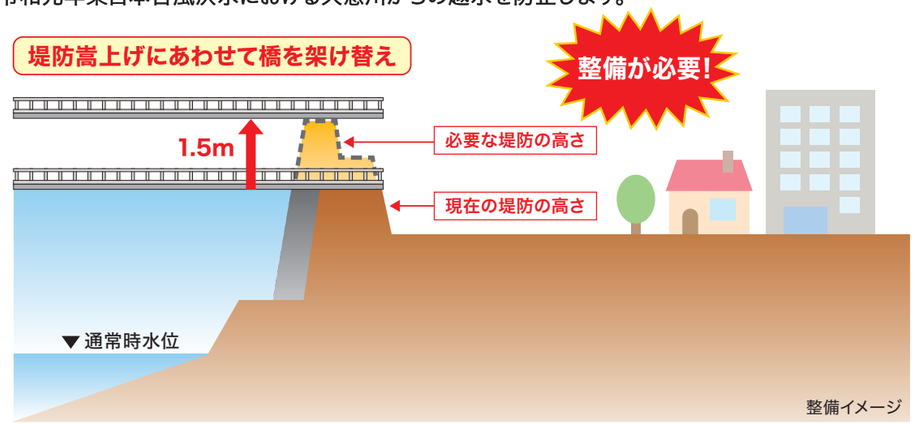
堤防が整備されていない区間の堤防整備や、高さや幅が不足している区間の堤防嵩上げや拡幅等を行い、令和元年東日本台風と同規模の洪水が発生した場合において、家屋の浸水被害防止を目標としております。
松沼橋周辺（右岸側）は堤防の高さが低いため、堤防の嵩上げと併せて橋を架け替えることにより必要な高さを確保することで、浸水被害の防止を図ります。

松沼橋を架替する必要性と効果

現在の松沼橋は1963年5月にそれまでの木橋からコンクリート橋に架け替えられ、76年には上流側に歩道橋を設置しました。

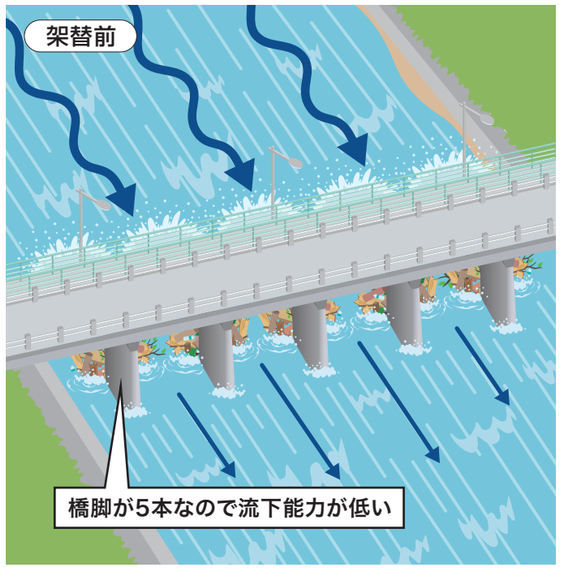
■堤防整備により越水の防止

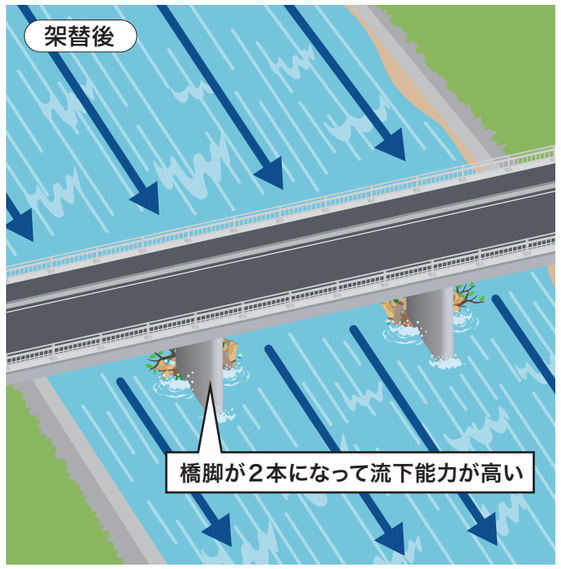
松沼橋周辺の右岸（市街地）側では、必要な堤防の高さが不足しているため、堤防の嵩上げを行い浸水被害の防止を図ります。堤防と同様に松沼橋の桁下は必要な堤防の高さに対して約1.5m低く危険な状態となっているため、堤防の嵩上げとあわせて橋を架け替えることにより、必要な高さを確保します。
これにより令和元年東日本台風洪水における久慈川からの越水を防止します。

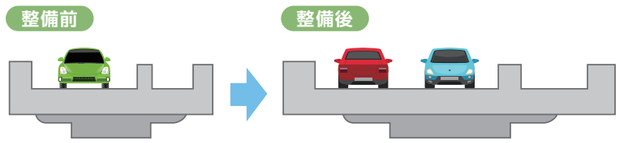


■橋脚を減らし流下能力を向上

現在の橋梁は、必要な堤防の高さよりも低いことに加え、橋脚が５基あり、洪水流下の阻害にもなっています。
このため、洪水が発生した場合には橋梁周辺の堤防から浸水被害が発生するおそれがあります。
必要な堤防より高い位置に橋梁を架け替えるとともに、橋脚を５基から２基にすることで洪水時によりスムーズに流すことが可能となります。





■利便性の向上

現在の橋梁幅員では対面通行が困難なため、一方通行としています。
プロジェクトによる架け替えとあわせて、大子町からの要請を受け、対面通行が可能な幅員を確保します。
これにより利便性の向上が期待されます。